

Ⅱ 結 果 の 内 容

《高齢者の就労・社会参加について》

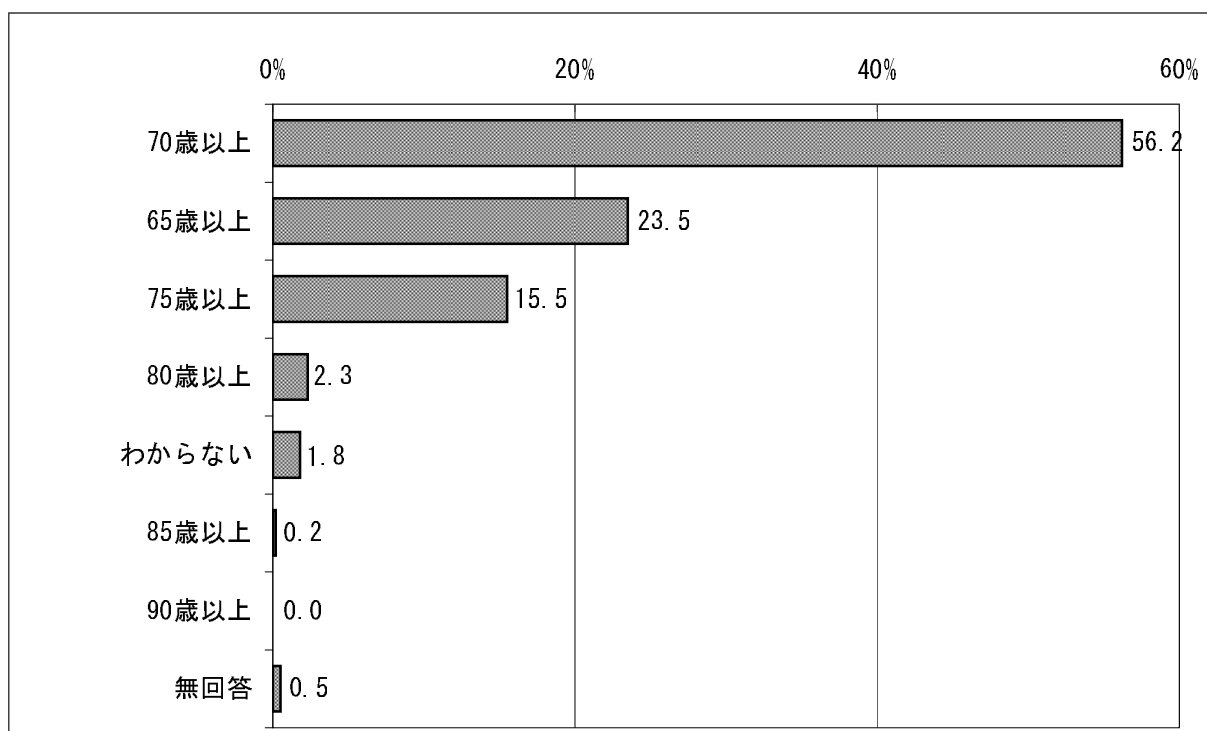
＜高齢者とするべき年齢＞

「70歳以上を高齢者とするべき」が6割弱

現在、介護保険など様々な制度において、「65歳以上」を高齢者としていますが、あなたは、
問1 後は、何歳以上を高齢者とするべきと思いますか。あてはまるものを選んでください。（○は1つ）

	n= 827	回答数 (人)	割合 (%)
70歳以上		465	56.2
65歳以上		194	23.5
75歳以上		128	15.5
80歳以上		19	2.3
わからない		15	1.8
85歳以上		2	0.2
90歳以上		0	0.0
無回答		4	0.5

●「70歳以上」が56.2%と最も高く、次いで「65歳以上」(23.5%)、「75歳以上」(15.5%)となっている。



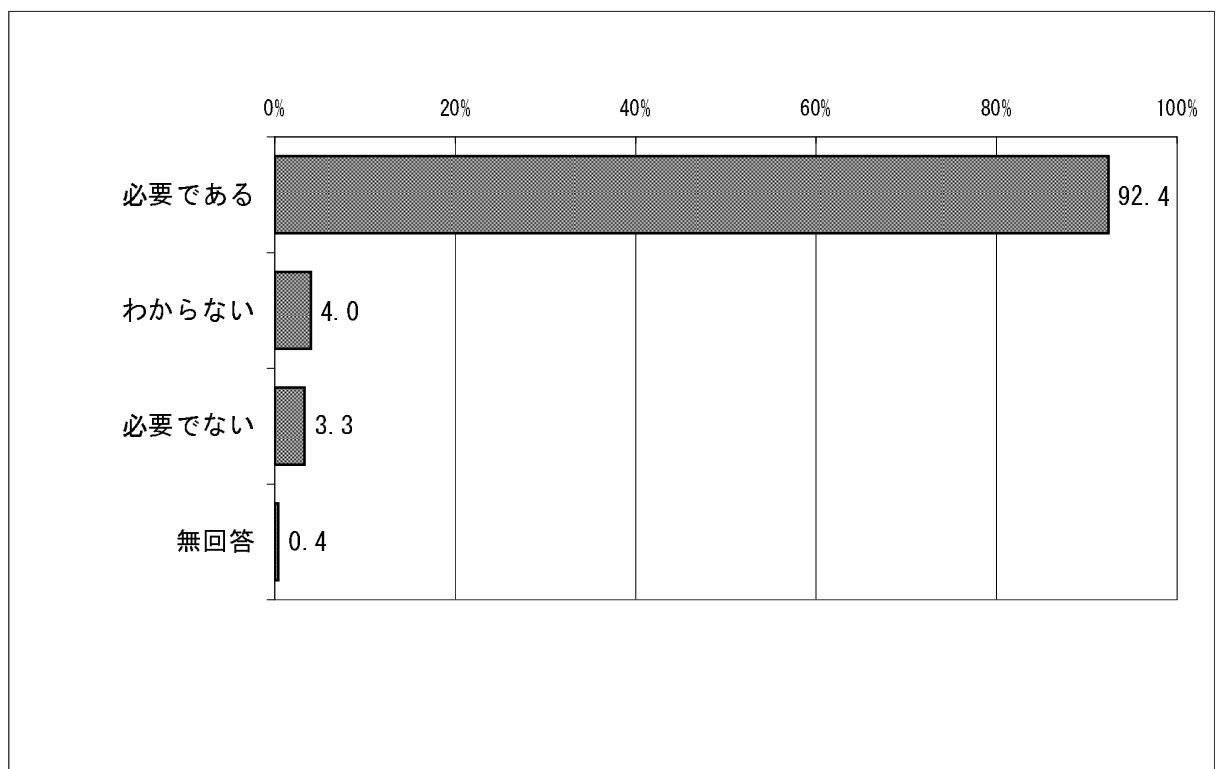
＜高齢者の社会参加活動推進の必要性＞
「必要である」が約9割

問2 あなたは高齢者の社会参加活動を推進することは必要だと思いますか。あてはまるものを選んでください。(○は1つ)

※以下「社会参加活動」とは、家族以外の他者と一緒にを行う活動または、家族以外の他者のために行う活動とし、就業も含めます。

	n= 827	回答数 (人)	割合 (%)
必要である		764	92.4
わからない		33	4.0
必要でない		27	3.3
無回答		3	0.4

●「必要である」が92.4%と最も高く、次いで「わからない」(4.0%)、「必要でない」(3.3%)となっている。

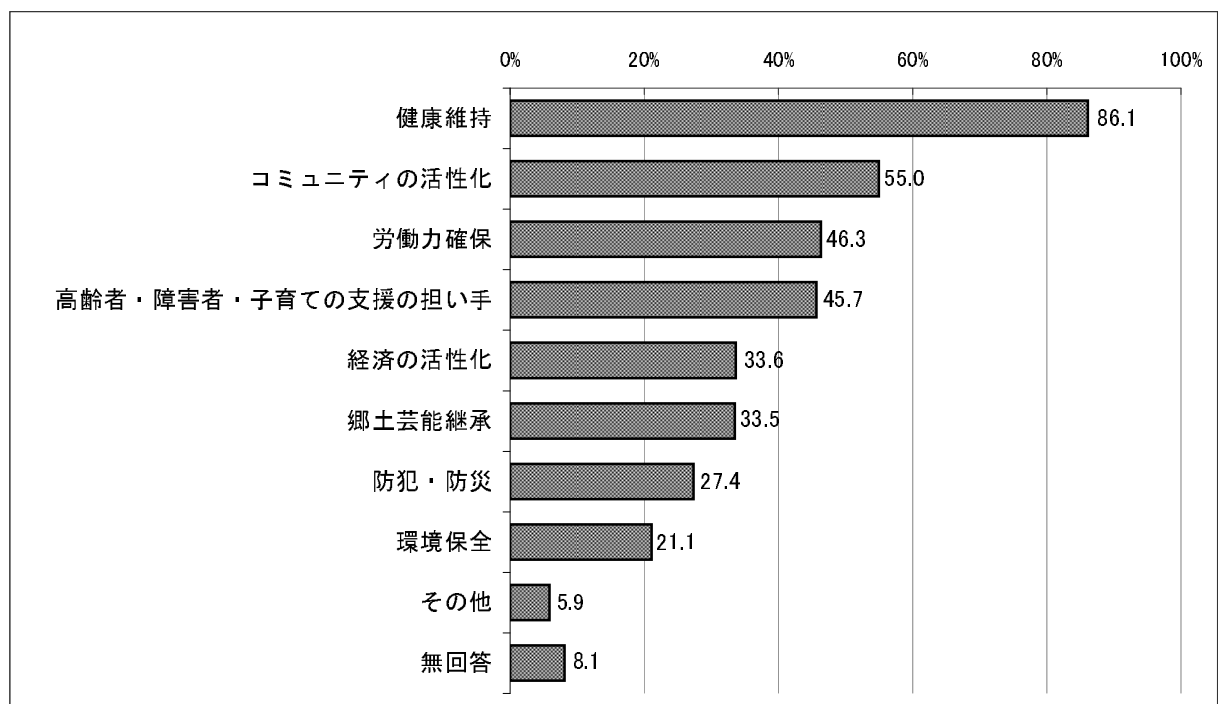


＜高齢者の社会参加活動の推進が必要だと思う理由＞
「健康維持」が9割弱、次いで「コミュニティの活性化」が5割超

問3 問2で「必要である」と回答された方にお尋ねします。あなたが高齢者の社会参加活動を推進することが必要だと思う理由は何ですか。あてはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

	n= 764	回答数 (人)	割合 (%)
健康維持		658	86.1
コミュニティの活性化		420	55.0
労働力確保		354	46.3
高齢者・障害者・子育ての支援の担い手		349	45.7
経済の活性化		257	33.6
郷土芸能継承		256	33.5
防犯・防災		209	27.4
環境保全		161	21.1
その他		45	5.9
無回答		62	8.1

●高齢者の社会参加活動推進が「必要な理由」は、「健康維持」が86.1%と最も高く、次いで「コミュニティの活性化」(55.0%)、「労働力確保」(46.3%)となっている。

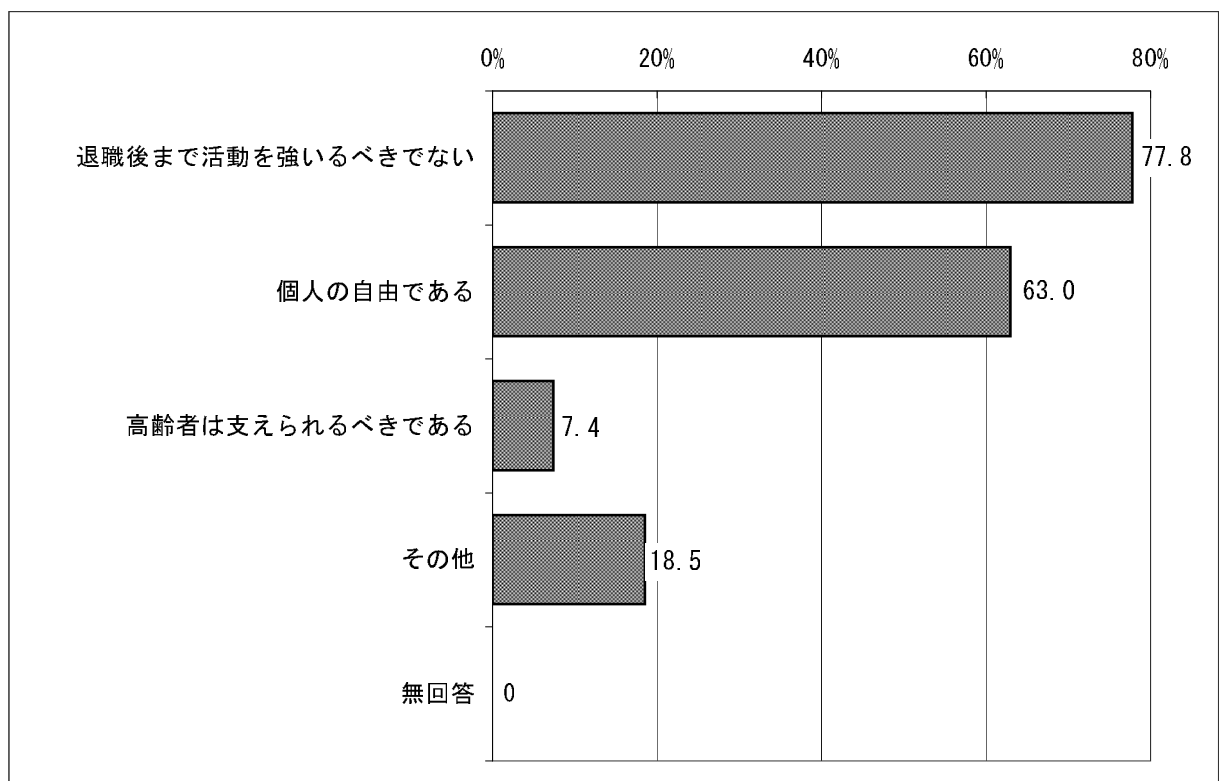


＜高齢者の社会参加活動の推進が必要ではないと思う理由＞
「退職後まで活動を強いるべきでない」が約8割

問4 問2で「必要でない」と回答された方にお尋ねします。あなたが高齢者の社会参加活動を推進することが必要ではないと思う理由は何ですか。あてはまるものを選んでください。（○はいくつでも）

	n= 27	回答数 (人)	割合 (%)
退職後まで活動を強いるべきでない		21	77.8
個人の自由である		17	63.0
高齢者は支えられるべきである		2	7.4
その他		5	18.5
無回答		0	0.0

● 「退職後まで活動を強いるべきでない」が77.8%と最も高く、次いで「個人の自由である」(63.0%)となっている。



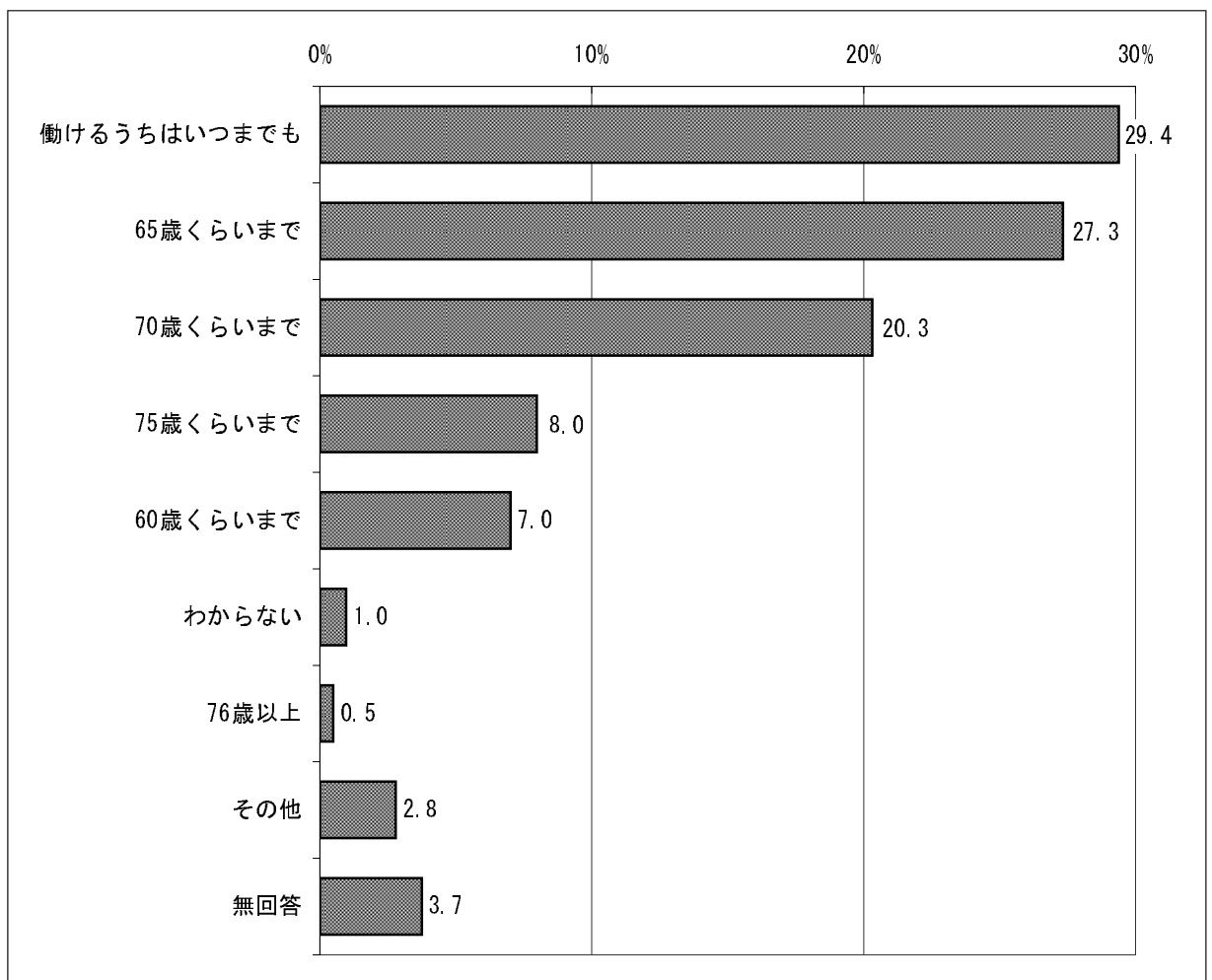
<就労希望時期>

「働けるうちはいつまでも」が約3割、次いで「65歳くらいまで」が3割弱

問5 あなたの就労希望時期(何歳頃まで仕事をしたいですか)について、あてはまるものを選んでください。(○は1つ)

	n= 827	回答数 (人)	割合 (%)
働けるうちはいつまでも		243	29.4
65歳くらいまで		226	27.3
70歳くらいまで		168	20.3
75歳くらいまで		66	8.0
60歳くらいまで		58	7.0
わからない		8	1.0
76歳以上		4	0.5
その他		23	2.8
無回答		31	3.7

● 「働けるうちはいつまでも」が29.4%と最も高く、次いで「65歳くらいまで」(27.3%)、「70歳くらいまで」(20.3%)となっている。



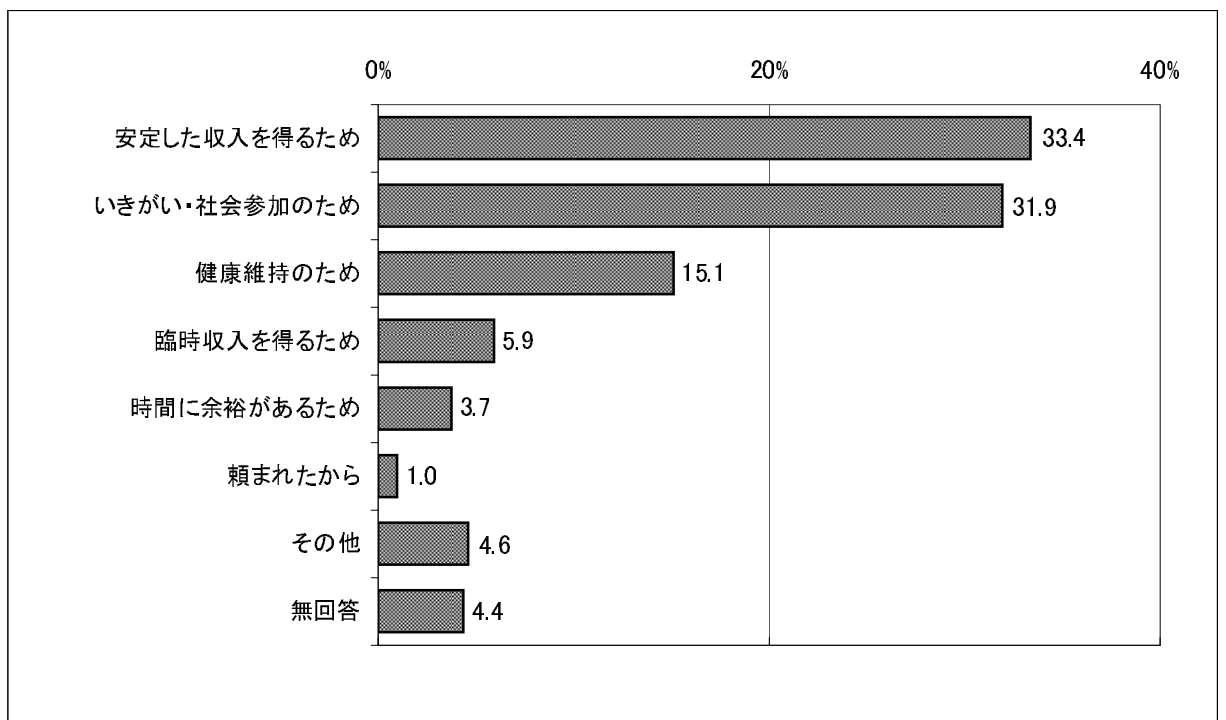
＜就労希望時期の理由＞

「安定した収入を得るため」が3割超、次いで「いきがい・社会参加のため」が約3割

問6 問5で回答された理由はどのようなものですか。あてはまるものを選んでください。（○は1つ）

	n= 827	回答数 (人)	割合 (%)
安定した収入を得るため		276	33.4
いきがい・社会参加のため		264	31.9
健康維持のため		125	15.1
臨時収入を得るため		49	5.9
時間に余裕があるため		31	3.7
頼まれたから		8	1.0
その他		38	4.6
無回答		36	4.4

● 「安定した収入を得るため」が33.4%と最も高く、次いで「いきがい・社会参加のため」(31.9%)、「健康維持のため」(15.1%)となっている。



＜60歳以上の方における現在の仕事の有無、現在仕事をしていない場合には仕事をしていた時期＞
「現在も仕事をしている」と「働いていた（現在仕事をしていない）」がそれぞれ約5割。現在仕事をしていない場合、働いていた年齢は「60～64歳まで」が最も多い。

問7 60歳以上の方にお尋ねします。あなたは現在仕事をしていますか。仕事をされていない場合には、何歳頃まで仕事をしていましたか。あてはまるものを選んでください。（○は1つ）

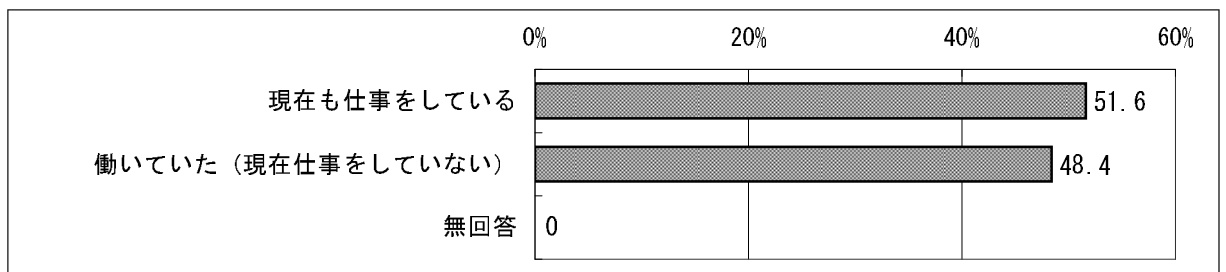
	n= 438	回答数 (人)	割合 (%)
現在も仕事をしている		226	51.6
働いていた（現在仕事をしていない）		212	48.4
無回答		0	0.0

（現在仕事をしていない場合「働いていた」年齢内訳）

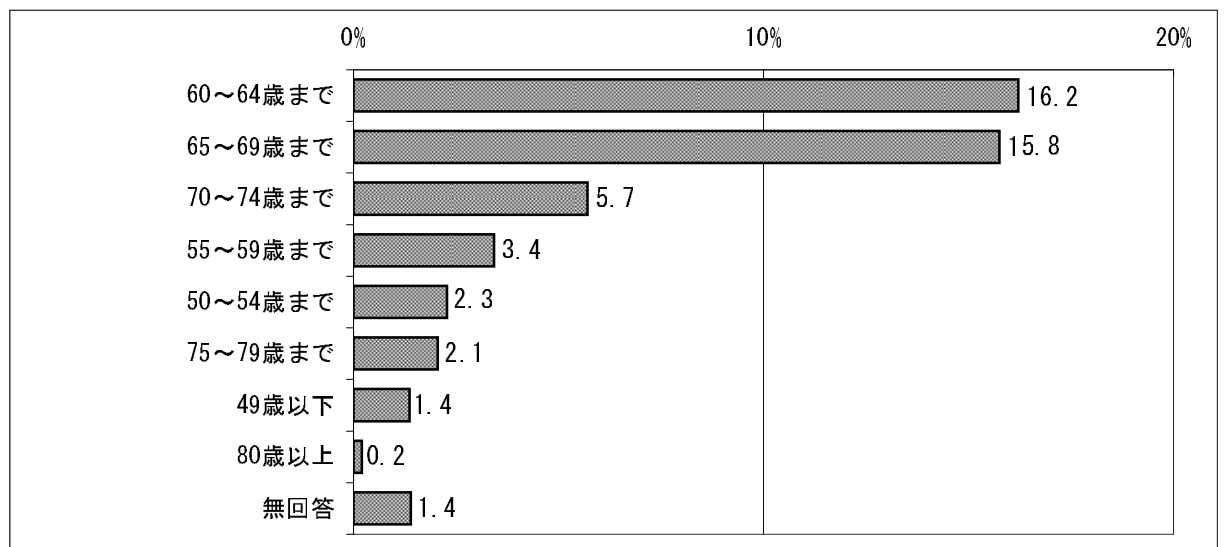
60～64歳まで	71	16.2
65～69歳まで	69	15.8
70～74歳まで	25	5.7
55～59歳まで	15	3.4
50～54歳まで	10	2.3
75～79歳まで	9	2.1
49歳以下	6	1.4
80歳以上	1	0.2
無回答	6	1.4

● 「現在も仕事をしている」が51.6%、「働いていた（現在仕事をしていない）」が48.4%で、ほぼ半数ずつの割合となっている。

● 現在仕事をしていない場合、「働いていた」年齢は「60～64歳まで」が16.2%と最も多く、次いで「65～69歳」（15.8%）、「70～74歳」（5.7%）となっている。



【年齢別】「働いていた」年齢（現在仕事をしていない場合）



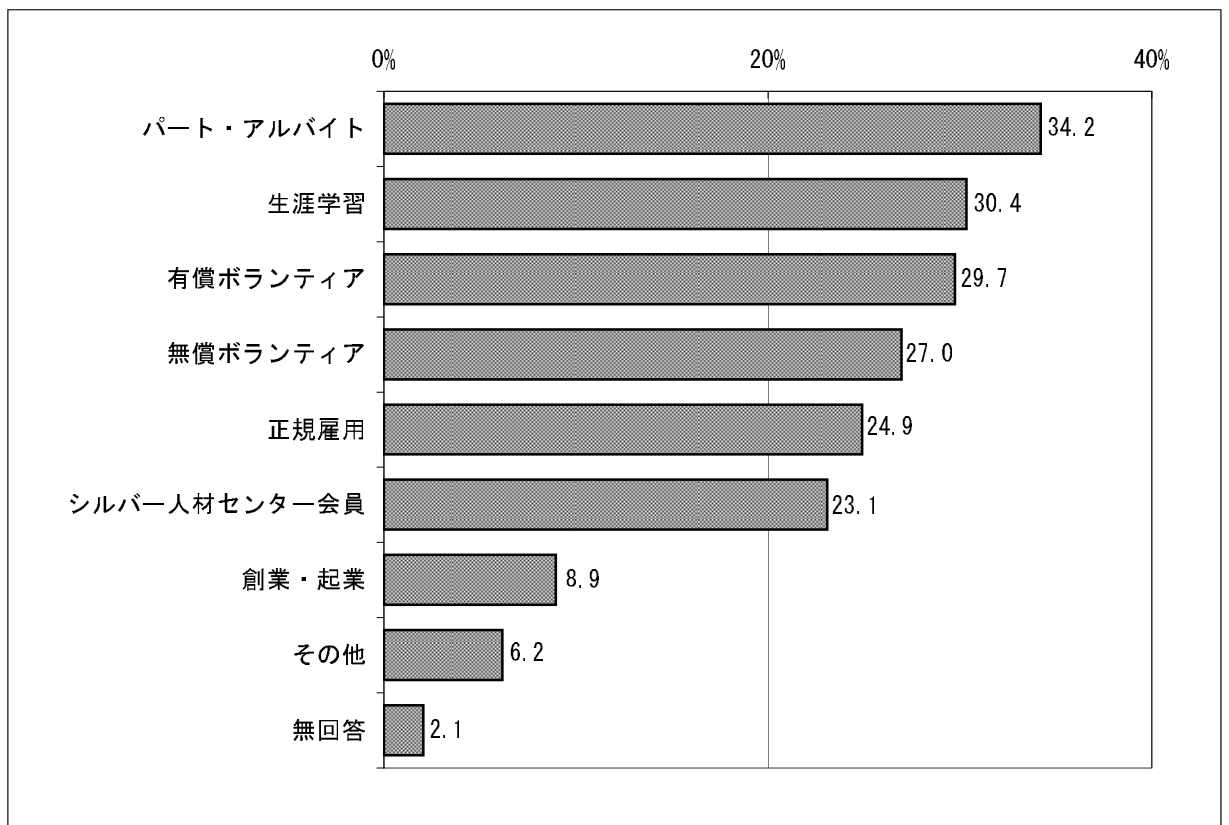
＜希望する社会参加活動の形態＞

「パート・アルバイト」が3割超、次いで「生涯学習」が約3割

問8 あなたが希望する社会参加活動の形態はどのようなものですか。あてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	n= 827	回答数 (人)	割合 (%)
パート・アルバイト		283	34.2
生涯学習		251	30.4
有償ボランティア		246	29.7
無償ボランティア		223	27.0
正規雇用		206	24.9
シルバー人材センター会員		191	23.1
創業・起業		74	8.9
その他		51	6.2
無回答		17	2.1

● 「パート・アルバイト」が34.2%と最も高く、次いで「生涯学習」(30.4%)、「有償ボランティア」(29.7%)となっている。



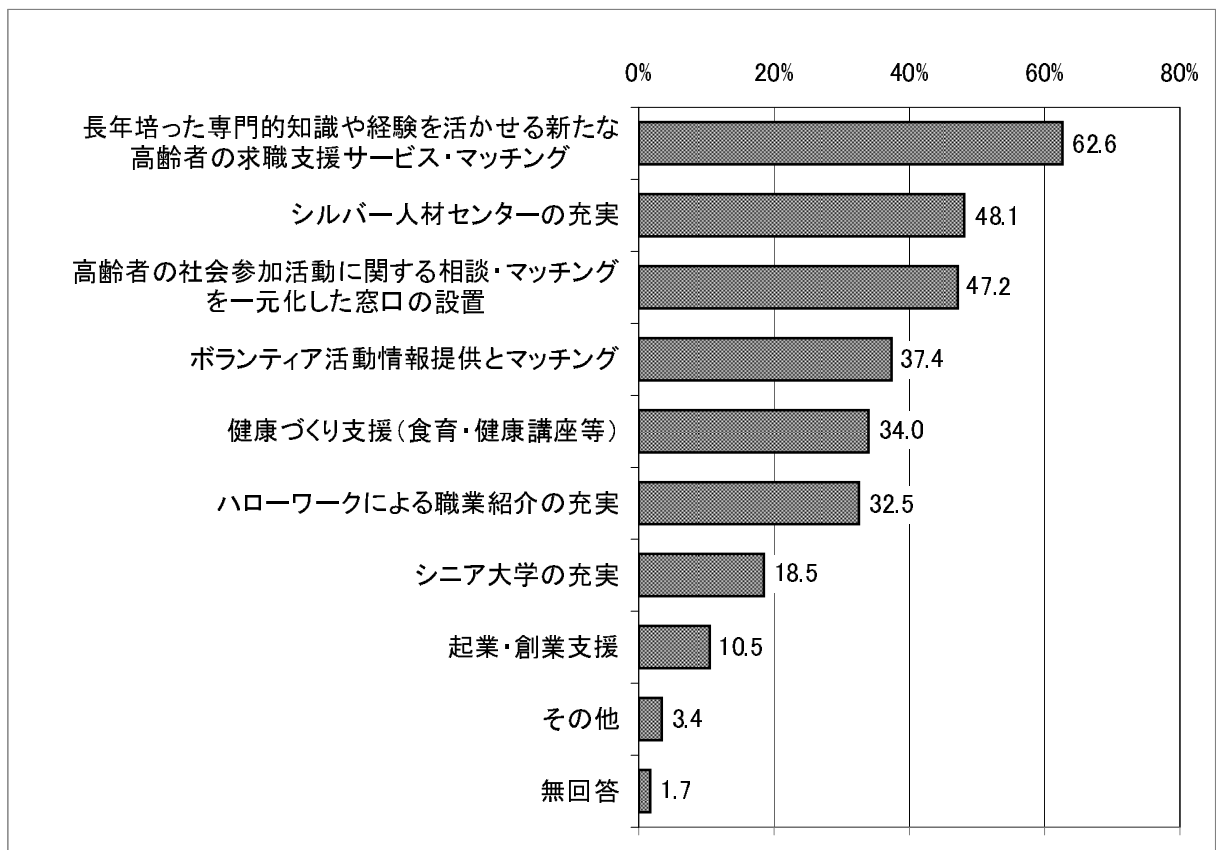
＜高齢者の社会参加活動促進に必要な対策＞

「長年培った専門的知識や経験を活かせる新たな高齢者の求職支援サービス・マッチング」が6割超

問9 あなたは、高齢者の希望する社会参加活動を促進するために、どのような対策が必要だと思いますか。あてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	回答数 (人)	割合 (%)
n= 827		
長年培った専門的知識や経験を活かせる新たな高齢者の求職支援サービス・マッチング	518	62.6
シルバー人材センターの充実	398	48.1
高齢者の社会参加活動に関する相談・マッチングを一元化した窓口の設置	390	47.2
ボランティア活動情報提供とマッチング	309	37.4
健康づくり支援(食育・健康講座等)	281	34.0
ハローワークによる職業紹介の充実	269	32.5
シニア大学の充実	153	18.5
起業・創業支援	87	10.5
その他	28	3.4
無回答	14	1.7

●「長年培った専門的知識や経験を活かせる新たな高齢者の求職支援サービス・マッチング」が62.6%と最も多く、次いで「シルバー人材センターの充実」(48.1%)、「高齢者の社会参加活動に関する相談・マッチングを一元化した窓口の設置」(47.2%)となっている。

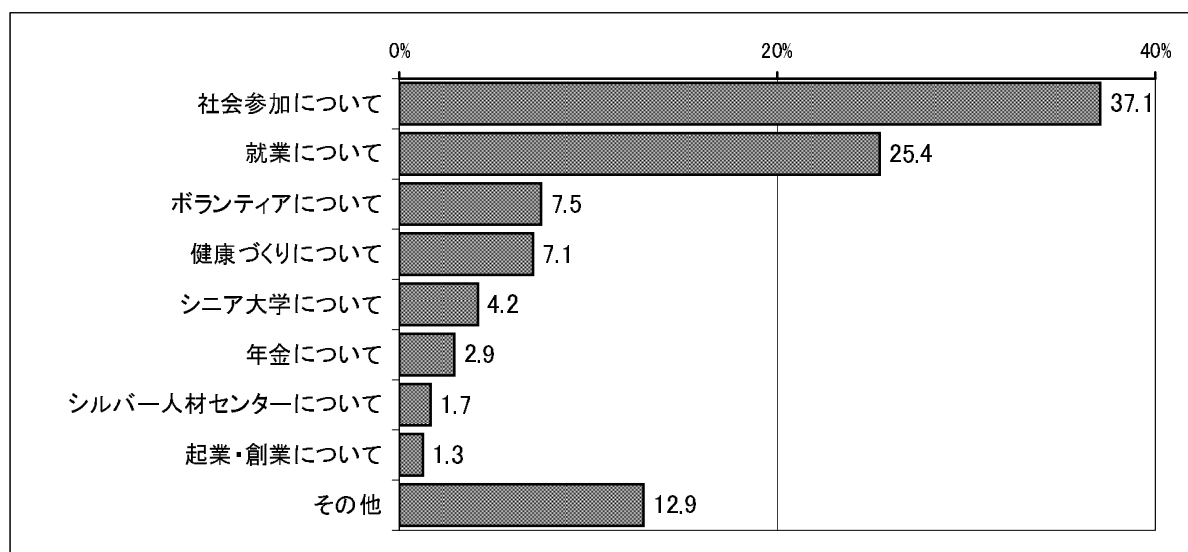


＜高齢者の社会参加活動促進のあり方＞
「社会参加について」が4割弱

問10 以上(問1～9)のほか、高齢者の社会参加活動の促進のあり方に関して、何かご意見がございましたら、下記に記入願います。(自由記載)

(記入者数 240名・記入率 29.0%) n= 240	回答数 (人)	割合 (%)
社会参加について 高齢者のみではなく、若い人達と共に活動することが大切、等	89	37.1
就業について 高齢者の働ける場所、雇用の充実、さまざまな選択肢の増加を希望、等	61	25.4
ボランティアについて 知識や経験をたくさん伝えていける場が望ましい、等	18	7.5
健康づくりについて 働く事で生きがいを持ち健康も維持され、医療費の削減になるのでは、等	17	7.1
シニア大学について これからのもっと現実的なものに目を向けてほしい、等	10	4.2
年金について 定年が早く年金をもらうのが遅いではこまる、等	7	2.9
シルバー人材センターについて 仕事の内容によっては活用をさらに進めるべき、等	4	1.7
起業・創業について 農業を中心とした企業化の検討、等	3	1.3
その他 きめ細かい対策が必要、高齢者同士の支え合いが望ましい、等	31	12.9

●「社会参加について」が37.1%で最も高く、次いで「就業について」(25.4%)、「ボランティアについて」(7.5%)となっている。



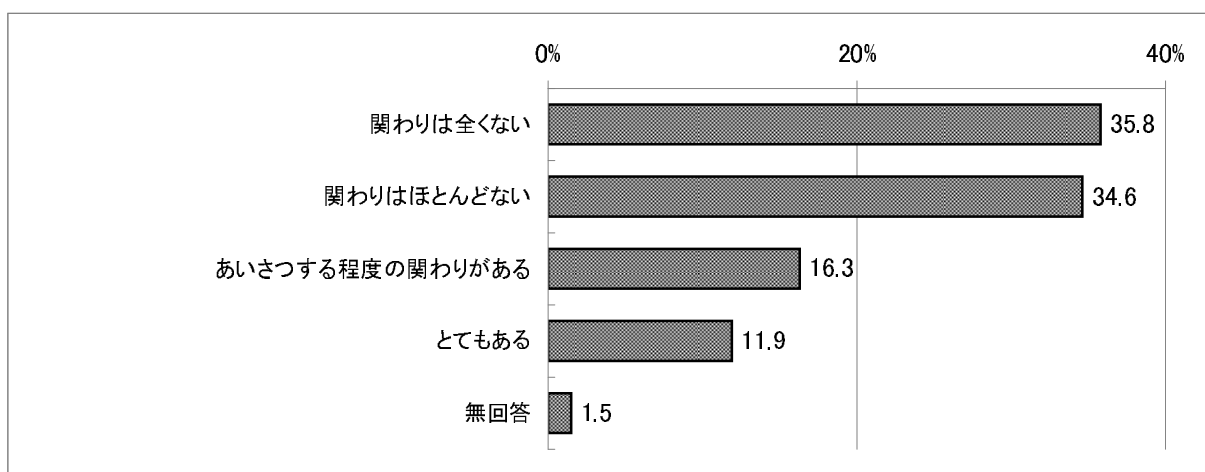
《多文化共生社会について》

＜日常生活での外国人との関わり＞
何らかの関わりが「ある」が約3割

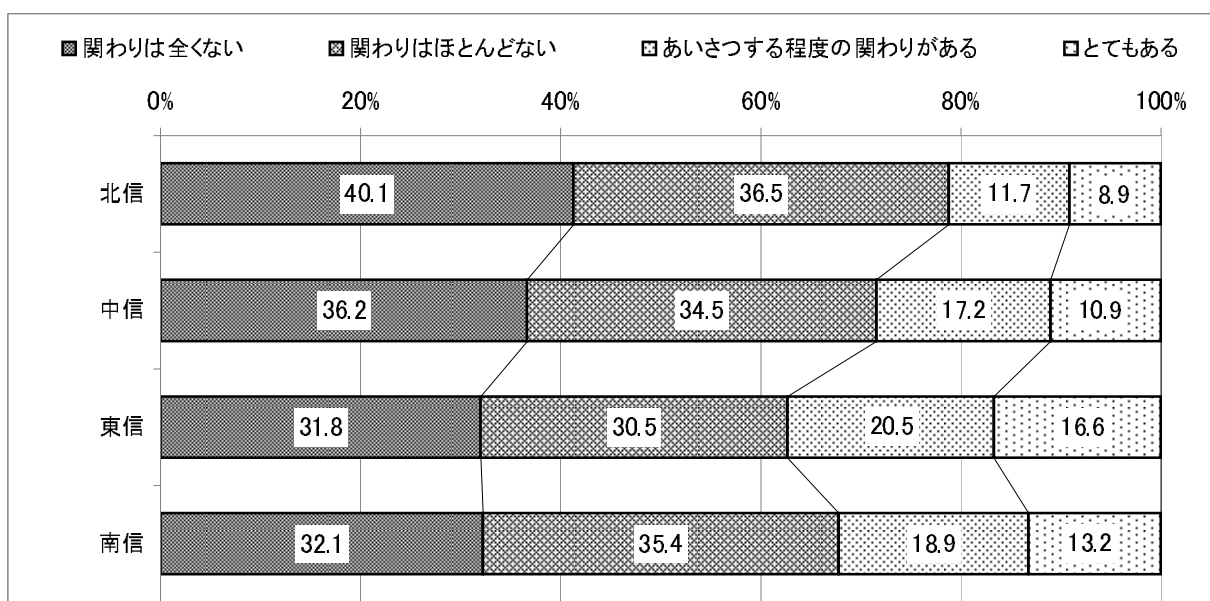
問11 あなたは、日常生活で県内に住んでいる外国人とどのような関わりがありますか。または、ありましたか。あてはまるものを選んでください。(○は1つ)

	n= 827	回答数 (人)	割合 (%)
関わりは全くない。		296	35.8
関わりはほとんどない。(例 顔を知っている程度、近所に住んでいる。)		286	34.6
あいさつする程度の関わりがある。(例 職場の同僚、よく行く店で働いている。)		135	16.3
とてもある。(例 知人、友人、親戚等である。)		98	11.9
無回答		12	1.5

- 「全くない」が35.8%と最も高く、次いで「ほとんどない」(34.6%)、「あいさつする程度」(16.3%)となっている。
- 「あいさつする程度」(16.3%)と「とてもある」(11.9%)を合わせると約3割が日常生活で外国人と何らかの関わりがある。



- 「あいさつする程度の関わりがある」、「とてもある」を合わせた割合は、地域別では、東信が37.1%と最も高く、次いで南信(32.1%)、中信(28.1%)、北信(20.6%)となっている。



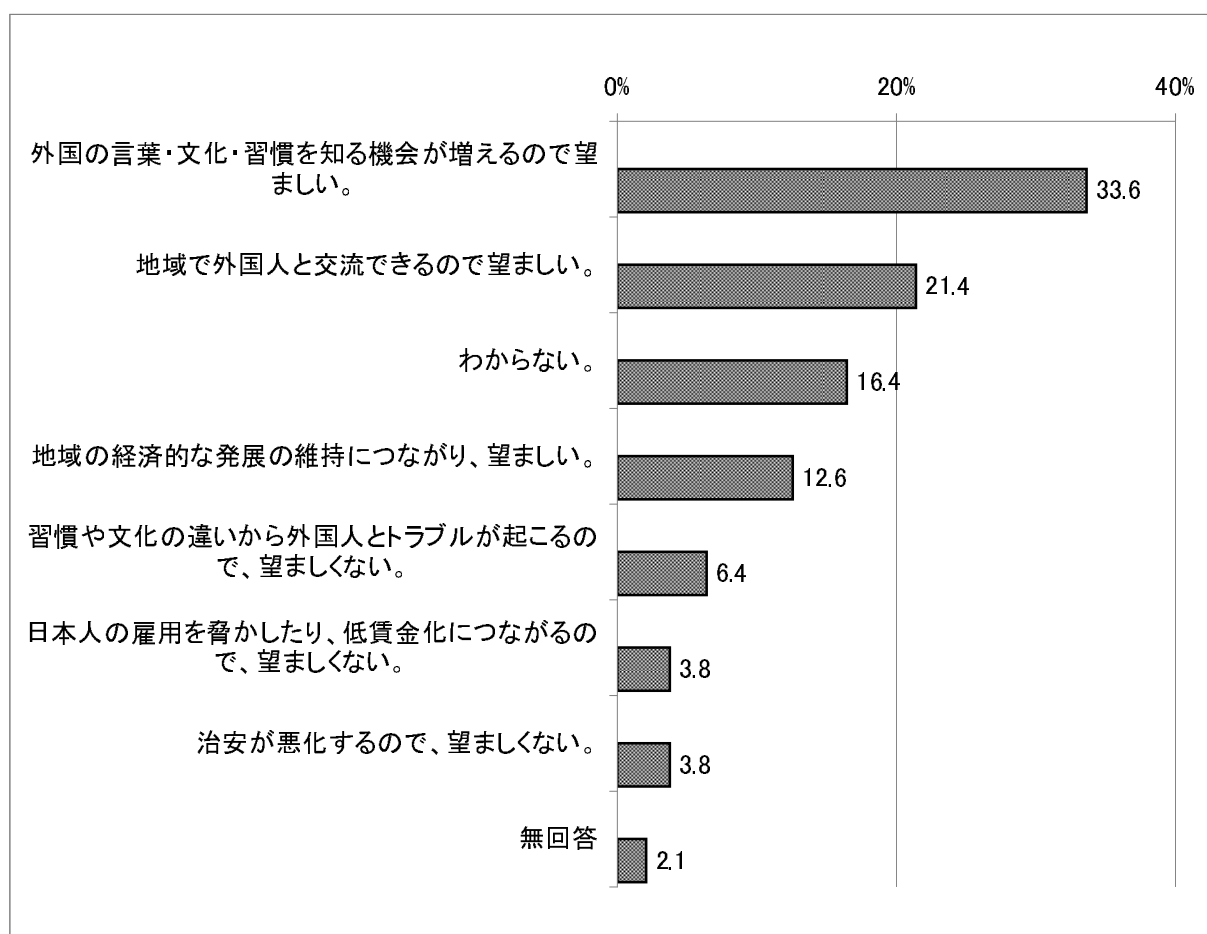
＜外国人とともに暮らす社会＞

何らかの理由で「外国人と暮らす社会について望ましい」が約7割

問12 あなたは外国人とともに暮らす社会についてどう思いますか。あてはまるものを選んでください。
(○は1つ)

	n= 827	回答数 (人)	割合 (%)
外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので望ましい。		278	33.6
地域で外国人と交流できるので望ましい。		177	21.4
わからない。		136	16.4
地域の経済的な発展の維持につながり、望ましい。		104	12.6
習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こるので、望ましくない。		53	6.4
日本人の雇用を脅かしたり、低賃金化につながるので、望ましくない。		31	3.8
治安が悪化するので、望ましくない。		31	3.8
無回答		17	2.1

●「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので望ましい」が33.6%と最も高く、次いで「地域で外国人と交流できるので望ましい」(21.4%)となっており、「地域の経済的な発展の維持につながり、望ましい」(12.6%)を加えると、約7割が何らかの理由で「外国人と暮らす社会について望ましい」と考えている。



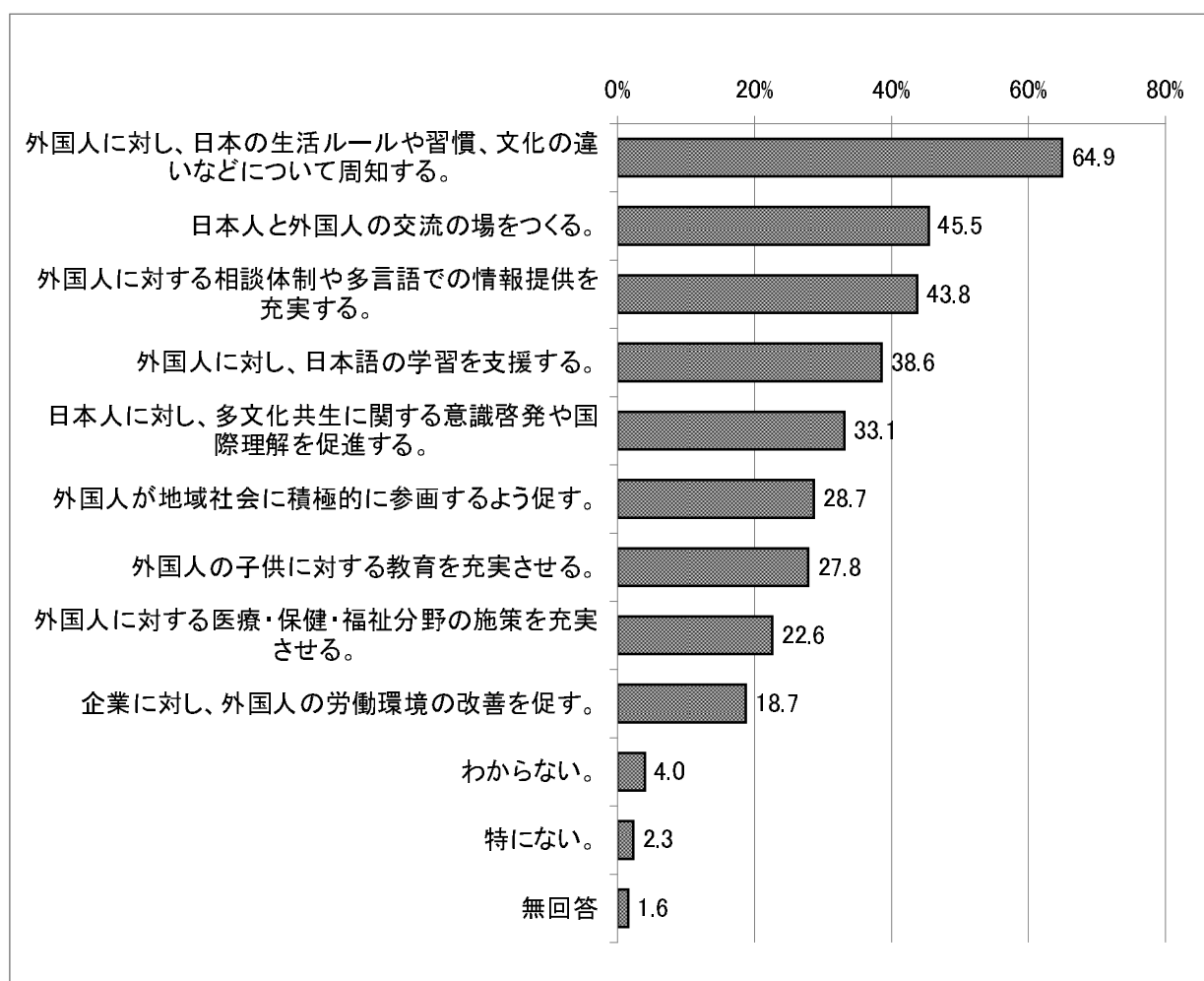
＜県や市町村が力を入れるべき取組＞

「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が6割超

問13 あなたは外国人とともに暮らしやすい社会にしていくためには、県や市町村はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。あてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	n= 827	回答数 (人)	割合 (%)
外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する。		537	64.9
日本人と外国人の交流の場をつくる。		376	45.5
外国人に対する相談体制や多言語での情報提供を充実する。		362	43.8
外国人に対し、日本語の学習を支援する。		319	38.6
日本人に対し、多文化共生に関する意識啓発や国際理解を促進する。		274	33.1
外国人が地域社会に積極的に参画するよう促す。		237	28.7
外国人の子供に対する教育を充実させる。		230	27.8
外国人に対する医療・保健・福祉分野の施策を充実させる。		187	22.6
企業に対し、外国人の労働環境の改善を促す。		155	18.7
わからない。		33	4.0
特にない。		19	2.3
無回答		13	1.6

●「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が64.9%と最も高く、次いで「日本人と外国人の交流の場をつくる」(45.5%)、「外国人に対する相談体制や多言語での情報提供を充実する」(43.8%)となっている。



《介護マークの認知度について》

[介護マーク]

＜介護マークの認知度＞

「介護マークを知っていた」は約2割

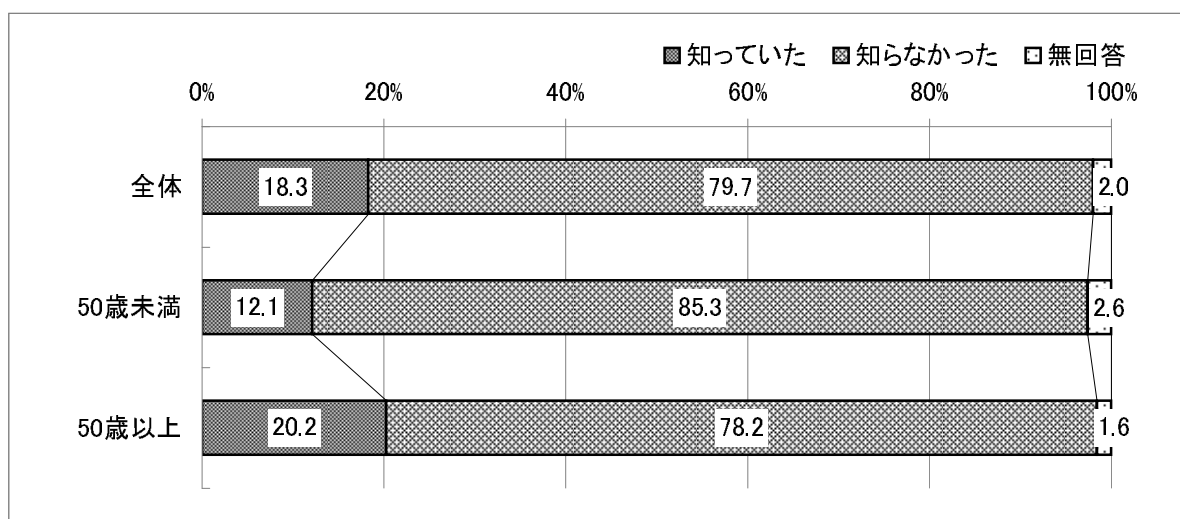
「介護マークを見て何を意味しているかわかった」は8割弱



問14 あなたは、「介護マーク」を知っていましたか。あてはまるものを選んでください。(○は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
知っていた	151	18.3
知らなかった	659	79.7
無回答	17	2.0

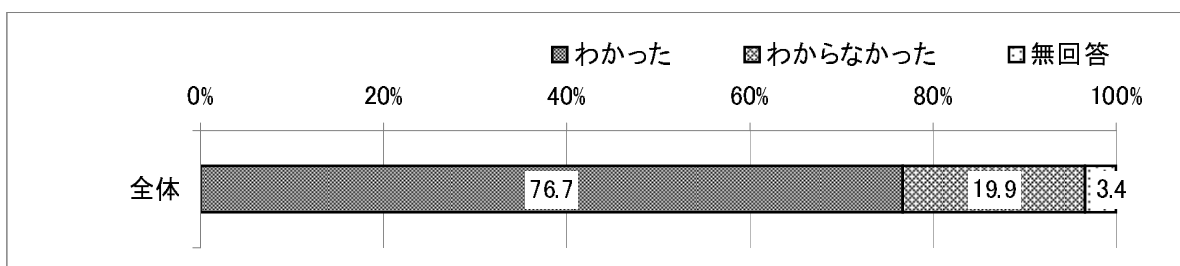
●介護マークについて、「知っていた」は18.3%となっている。年齢別に見ると50歳以上の方が認知度は高い。



問15 あなたは、「介護マーク」を見て、何を意味しているかわかりましたか。あてはまるものを選んでください。(○は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
わかった	634	76.7
わからなかった	165	19.9
無回答	28	3.4

●介護マークが何を意味しているかは、76.7%が「わかった」と回答している。



《県職員の姿勢・行動について》

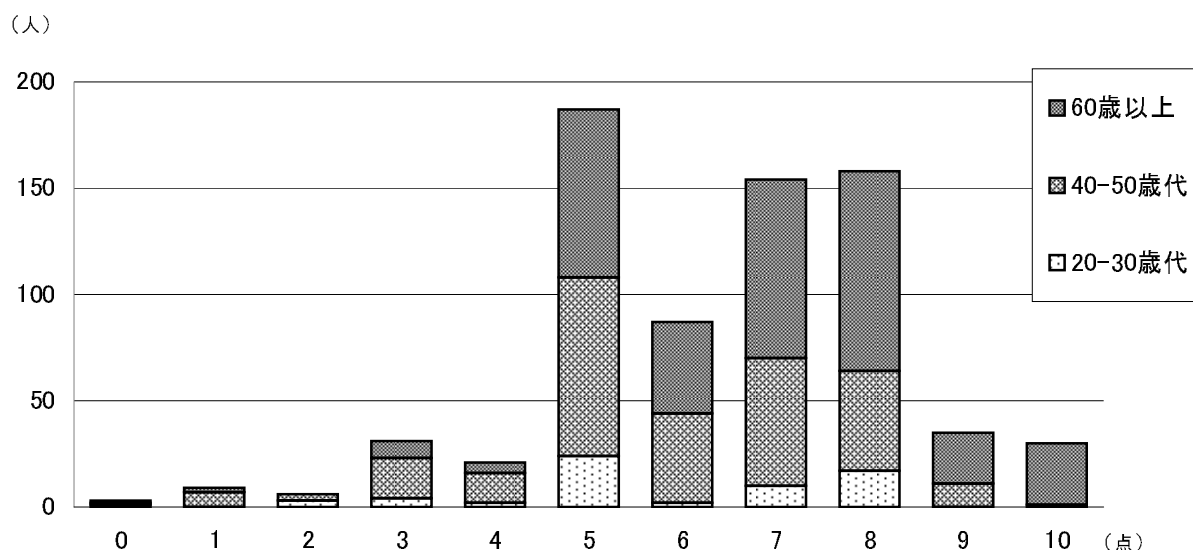
＜県職員の県民の期待への対応度＞

県職員がどの程度県民の期待に応えられているかについての県民評価は6.5点
(前回調査(H25.1実施)における平均点は6.3点)

問16 県の職員は、県民の皆様の期待にどの程度応えられていると思いますか。
(10点満点の点数を記入してください。)

年代	n=827		【参考】平成25年1月実施 (n=869)	
	回答数 (人)	平均 (点)	回答数 (人)	平均 (点)
20～30歳代	63	5.8	86	5.7
40～50歳代	289	5.9	326	5.9
60歳以上	369	6.9	386	6.8
全体	721	6.5	798	6.3
無回答	106	—	71	—

●最も多い評価は「5点」。平均点は、60歳以上が最も高く(6.9点)、年代が下がるにつれて低くなっている。



＜県職員の仕事への取組姿勢＞

県職員の仕事に対する姿勢についての県民評価は6.4点
(前回調査(H25.1実施)における平均点は6.2点)

問17 県の職員は、「高い志と仕事への情熱を持って職務に取り組んでいる」と思いますか。
(10点満点の点数を記入してください。)

年代	n=827		【参考】平成25年1月実施 (n=869)	
	回答数 (人)	平均 (点)	回答数 (人)	平均 (点)
20～30歳代	63	5.5	85	5.4
40～50歳代	284	5.8	327	5.7
60歳以上	367	6.8	390	6.8
全体	714	6.4	802	6.2
無回答	113	—	67	—

●最も多い評価は「5点」。平均点は、60歳以上が最も高く(6.8点)、年代が下がるにつれて低くなっている。

